産業振興・雇用対策調査特別委員会会議記録

産業振興・雇用対策調査特別委員会委員長　　千葉　絢子

１　日時

令和２年８月５日（水曜日）

午前 10 時１分開会、午前 11 時 40 分散会

２　場所

第４委員会室

３　出席委員

千葉絢子委員長、千葉盛副委員長、佐々木順一委員、軽石義則委員、岩渕誠委員

神﨑浩之委員、佐々木宣和委員、髙橋但馬委員、千田美津子委員、小林正信委員

山下正勝委員

４　欠席委員

なし

５　事務局職員

小志戸前担当書記、畠山担当書記

６　説明のため出席した者

株式会社小田島組　代表取締役　小田島　直樹　氏

７　一般傍聴

なし

８　会議に付した事件

（１）調査

「今が、岩手の発展の大チャンス！」

（２）その他

次回の委員会運営について

９　議事の内容

○千葉絢子委員長　ただいまから産業振興・雇用対策調査特別委員会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。本日は、皆様のお手元に配付しております日程のとおり、今が、岩手の発展の大チャンス！について調査を行います。

本日は、講師として株式会社小田島組代表取締役、小田島直樹様をお招きしておりますので、御紹介いたします。小田島様、一言御挨拶をお願いいたします。

○小田島直樹参考人　株式会社小田島組代表取締役、小田島直樹と申します。本日はよろしくお願いします。

○千葉絢子委員長　小田島様の御経歴につきましては、お手元に配付している資料のとおりでございます。本日は、今が、岩手の発展の大チャンス！と題しまして、ウィズコロナ

時代における働き方や企業のあり方などについてお話しいただくことになっております。

小田島様におかれましては、大変お忙しいところをこのたびの御講演をお引き受けいただきまして、改めて感謝を申し上げます。

これから講師のお話をいただくことといたしますが、後ほど小田島様を交えての質疑、意見交換の時間を設けておりますので、御了承いただきたいと思います。

それでは、小田島様、よろしくお願いいたします。

○小田島直樹参考人　皆さん、おはようございます。ただいま御紹介いただきました株式会社小田島組の小田島と申します。建設業小田島組をやっており、岩手県の皆様には大変お世話になっておりまして、私も岩手県の発展に大いに報いたいという思いできょうは参りました。

ちなみに、小田島組と聞いたことある方、ちょっと手を挙げていただいてよろしいですか。ありがとうございます。

それでは、簡単に我が社の自己紹介をさせていただきたいと思います。きょうは、お手元に資料もお配りしておりまして、これは創業からの青線が社員の数です。七、八年ぐらい前から新卒採用をどんどん始めまして、私が社長をやり始めたころは35人から40人ぐらいの社員だったのですが、現在135名、この七、八年で３倍ぐらいの社員の数になっております。

売り上げも、私が社長になったときは７億円ぐらいだったのですが、今は 30 億円から40億円ぐらいということで、本当に岩手県をはじめ皆さんのおかげでどんどん成長させていただいております。

また、大きな特徴として新卒採用にすごく力を入れておりまして、ことしの４月にも高卒と大卒合わせて20人の新入社員を採用しました。昨年は15人、その前は12人ですから、この３年で50人ぐらいの新卒採用をしております。多分これは県内の中小企業では相当多いほうではないかと思っております。

また、きのう、おとといも高校生の会社見学会におきまして、合計23名の高校生が見学に来て、これも全員がもちろん入るわけではないのですけれども、若い人から支持を集めることに私は一生懸命になっていて、とにかく若い人が岩手県に夢、希望が持てるような会社にしたいということで、社員と一緒にやっております。

特に、うちのホームページを見てもらえばわかるのですが、女性社員が40歳までに年収1,000 万円をとれるような会社にしたいということを思っております。事実、今うちの会社の上位10％は平均で年収700万円近くいっております。やっぱりそれは若い人にとって夢があると思うのです。私は、東京都の所得には絶対負けたくありません。岩手県は給料が安いです。この後説明しますけれども、これは生産性が悪いからで、この生産性を上げることによって、さらに岩手県の給料を高くしていきたいと思っています。今、東京都にはっきり言って負けているではないですか。岩手県で東京都に勝てないですよね。空気がおいしい、食べ物がおいしいとかいろいろ言うのですけれども、私はそれは負け惜しみだ

と思っています。やっぱり給料が高くないと若い人には魅力がないと思って会社運営をやっております。

ちょっと簡単に本社の紹介をさせていただきます。この２月 22 日に本社を移転させました。北上市の藤沢というところにあって、働き方ももう東京都に負けないというビジョンでやっております。実は建物の中もこういう感じで、本当に若い人が夢を持てるような空間で、この空間は学生に勉強部屋として開放しています。要はいつでも来て勉強していいよと。北上市はさくらホールや図書館などがあるのですけれども、学生も社会人もとにかく学ばなければいけないのだということで、こうやって開放してやっております。

こちらが我々の執務ルームです。吹き抜けを高くして、とにかく透明に、何でも見えるようにといったことを意識してこの空間をつくりました。

働き方としては、このようにやっていますけれども、実はきょう、こんな格好で失礼するのは、うちの会社の中では全員がジーパンとＴシャツ姿です。本当にスーツを着たほうが生産性が上がるのか。我々は生産性を見なければいけないのにそんなくだらない習慣に何をとらわれているのだということで、服装も今回見直しました。人を不快にさせるというのはまずいのだけれども、今の時代これぐらいは人を不快にはさせないだろうということで、この時代の流れに沿った本当に生産性を上げることはどんなことなのか、そういったものをこのオフィスづくりを通じて再度私はやりたいと思っております。

ですから、うちの会社の社内はこんな感じでやっていて、さすがに発注先に行くときはこれでは行けないので着替えていますし、銀行へ行くときはスーツを着ていますけれども、それ以外はなるべくこういった形で、特に生産性を上げるためにどうするかを意識してやっております。

それでは、なぜ私が若者から支持されるのか。私は年配者からは嫌われております。特に業界の親分みたいな人からはすごく嫌われておりまして、業界のルールを守らないとか、秩序を乱すとか、そういった意味で非常に私は非難を受けています。そのかわり若い人から支持を得ています。では、どうして若い人から支持を得るのかというところをちょっとお話ししたいと思います。

うちの会社に 55 歳の部長がいます。その 55 歳の部長に、定年まであと何年かと聞くと、定年が 65 歳だから、あと 10 年ですと言います。では、あそこにいる二十歳の女性職員はあと何年だと聞くと、あと 45 年ですと言います。あと 10 年の部長と、あと 45 年の職員と、どっちが会社として大事なのか。皆さんどっちだと思いますか。言うまでもないですよね。あと 45 年ある二十歳の職員のほうが大事ですよね。ただし、55 歳の部長にこう言います。あなたは功績があるし、実力がある。だから、給料は高い。給料は高いのだけれども、物事の考え方をあなたが彼女に合わせるのか、彼女があなたに合わせるのか、どっちだと聞きます。そうすると、うちの部長は絞り出すように、私が合わせるのですかねと言うわけですよね。天才、あなたは頭がいい。あと 10 年しか会社にいないあなたと、あと 45 年いる彼女、どっちがどっちに考え方を合わせるのだ。何であと 45 年いる彼女があなたに合わ

せなければいけないのだとなるわけです。

うちの会社は、さっき言ったように給料が高いです。給料が高いというのは、年をとってもどんどん過去の自分を否定することができるから給料が高いのです。普通大変な思いをしているというと、長時間働くことをイメージするのです。うちは残業とかは少ないです。働き方改革で少なくしています。けれども、うちの会社は大変と言われます。大変というのは、過去の自分を否定しなければいけないから大変なのです。過去の自分を否定しない限り未来はありません。今の年が55歳、これから頭の中は衰えていく、体力も衰えていく。それなのに、うちの会社は給料が高くなります。それはなぜかというと、きのうの自分を否定するからです、考え方を変えるからです。この考え方、価値観を変えるということは物すごく大変なことです。けれども、うちの会社では強制的にそれをやり続けることによって、年をとってもうちは給料が上がります。それは、こういった考え方があるからだと私は思っています。

では、これからの未来をどう考えているか。20年後をどう考えているか。ちょっとある動画を見ていただきます。

〔映像放映〕

○小田島直樹参考人　今見ていただきましたけれども、今のビデオは一体何年頃につくられたものだと思いますか。おわかりになる方はいらっしゃいますか。想像で、いかがでしょう。

○山下正勝委員　30年ぐらい前。

○小田島直樹参考人　知っていましたか。いきなり正解です。何と30年前に、未来の働き方、タッチパネル、そして音声入力、ＡＩの登場、シミュレーション、データドリブン、そしてその当時なかったアマゾンという会社ですよ、アマゾンなんて当時なかったのに、30年前にアマゾンの研究をしている物すごい会社です。では、この会社、何という会社かわかる方いらっしゃいますか。想像で結構です。皆さん全員知っているすごい会社です。きのう同じ問題を高校生に出したら、水沢工業高校の子が一人、わかりました。おわかりになりますか。

○髙橋但馬委員　ＩＢＭ。

○小田島直樹参考人　ＩＢＭ、野鴨の精神のＩＢＭですね。今こうだということは、30年後、要は栄えているという意味ですよね。未来の働き方、これをつくったのがアップルです。当時スティーブ・ジョブズが追い出されている時代の社長がつくった動画ですが、アップルです。正確には1988年と言われていますけれども、いずれ1990年頃世の中に発表されました。つまりアップルは、未来の世の中がこうなるということを予見して、そうなるための手伝いをしようとしたのです。だから、アップルはアップルなのです。だって、皆さんも、中学生も、小学生も、岩手県民全員知っているのですよ。アップルを知らない人はいないのですよ。そんな会社、ないではないですか。なぜアップルがアップルになったかというと、未来を予見して、その未来に向かって自分たちも努力していったから、ア

ップルがアップルになったのです。

通常我々は過去から現在を引き出して、今まではこうやってきたのだからこうしようと過去の慣例に伴って現在の決定をしています。

ところが、アップルは、未来はこうなるからということで現在を決定しています。つまりこれからはこうなるからそうするのだということです。過去にとらわれていないで、どういう未来になりたいのか、だからその未来のために今を決定するから、アップルはアップルになったのです。未来って皆さん一回も行ったことないですよね、一秒も行ったことないですよね。一秒も行ったことない未来を決めるのに、どうして過去を引っ張ってくる必要があるのか、そもそもがおかしいと気づきませんか。行きたい方向を決めないで、過去から引っ張ってきて未来を決定したら決まらないのです。私は常にそう思っています。だから、ありたい未来がどういう未来なのかを決めなければなりません。もちろん僕らがアップルになれるわけはないけれども、目指すべき方向というのはそういうことだと思うのです。

だから、一番最後に話しますけれども、私の会社の未来はこうなりたいと決めています。そして、こういう岩手県になりたい。そのためには自分たちがどういうことをやっていけるのか、そういったことを決めています。未来からの逆算思考をやっていかなければいけないのではないかと思っています。

そうなると、どうなる、どうしたいということで、例えば皆さん得意の選挙。紙を渡される、鉛筆で書く、折って、それを箱に入れる。それを箱から出して集計する。今どきこんなことやっているの、おかしくないですか。スマートフォンだったら全部で１分です。岩手県の選挙は１分で終わります。これは今までやっている過去からの思考です。どう考えたってこんなことやっていたら税金の無駄遣いですよね。だったら、そのお金でもっと老人介護とか、福祉とか、そっちにお金を回したほうがいいではないですか。要は老人や若者に酷なことをしているのに気づかないで、今までやっているからとやっているけれども、ちょっと考えてみてください。ちょっと考えてやったら、もう選挙はこんな投票はあり得ないでしょう。ちなみに、選挙について、判断ができないということで 18 歳まで選挙権がないではないですか。だったら 70 歳ぐらいもスマートフォンを使えない人は正しい判断ができませんから投票権なしとしたほうがいいですよね。

社員にも、これからの 20 年の間に生まれてくる子は全員スマートフォンを使えるから、20 年たってスマートフォンが使えなかったら、自分が困るのだぞと、死ぬときにみんなから相手にされないのと、死ぬ寸前までスマートフォンで孫とメールするのと、どっちがいいのだと言っているのです。私は、死ぬ寸前まで孫と、そろそろだめかもしれない、頑張れ、ピコとかやって、ああ、だめだ、さよならとスタンプを押して死ぬような、そんな人生がいいなと思います。スマートフォンを使えなかったら、孫からも家族からも相手にされないですよ。選ぶのはあなただと社員には言っていますけれども、要はそういったことです。

あと、ＥＴＣを使わずに高速に乗るなんてあり得ないですね。ＥＴＣを使わなかったら、そもそも乗る資格はない。だって、どう考えたって将来はそうなるに決まっているではないですか。だったら、早くやって、無駄遣いを減らすべきです。さらに言うと、いかに早くやるかが若者に好かれるか、嫌われるかの境目なのです。いつまでも前そうだったからとやっているから、若者は嫌うのです。私は思い立ったらすぐやっているのです。私は、二十歳の学生とどっちが早く時代に対応しているかと勝負しています。そうすると、二十歳のうちの社員たちは、直樹さんのほうが早いですと言います。肉体は負けているけれども、そういう適応能力は二十歳の子たちには負けないというつもりでやっています。

あとスマートフォンを使わないというぜいたくです。スマートフォンを使わないのだってぜいたくなのです。今は、目、鼻、口、スマートフォンなのです。私の体の一部になっています。だから、学校にスマートフォンを持っていけないというのはナンセンスです。だって、10 年後、20 年後、スマートフォンを使って授業をやっているに決まっているではないですか。もしやっていないのだったら、そんなところに住みたいですか。では、自分は嫌だけれども、孫はどっちに行くか、子供はどっちに住まわせたいですか。スマートフォンを使ってばんばん授業をやっているところと、いまだにスマートフォンはだめだなんて言って、紙でやっているところと、どっちに住まわせたいですか。自分たちは紙がいいかもしれないけれども、子供たちにはさせたくないではないですか。ということは、自分たちが努力しなくてはいけないのです、私たちが変わらなければいけないのです。何で自分は楽して、子供たちにだけ苦労させるのですか。だから、保守的な子供ばかりになるのではないですか。

きのう、学生説明会に 23 人来たのですが、ランドセルが赤、黒以外だった人と聞いたら、五、六人いました。今まで赤、黒以外は少なかったのです。けれども、だんだんふえてきました。何色でもいいのです、人と違うことが悪いことではないのだという価値観がふえてきたのです。前は何で赤、黒かというと、おじいちゃん、おばあちゃんが出てきて、目立つといじめられるとか、目立つとだめだという価値観ではないですか。うちの母親は今でも、直樹、きょうは何もなかったかと言います。何事もなかったことがいいという意味で捉えていますから、何もなかったというのはいい意味なのです。それは昔の価値観でいいのだけれども、おふくろ、何事もないということは、何も成長していないということだろう。何かあったほうがいい人生なのだよと、よく私は年老いた母親に言っているのです。

要はそれぐらい学校教育でスマートフォンを使わないってあり得ないですね。だから、どんどん使っていかなければなりません。何度もしつこいですけれども、未来に向かっていったら当然そうなるし、自分たちの下の世代をどうしたいかということなのです。下の世代にスマートフォンを使わせたいのに自分が使えなかったら、それはおかしいではないですか。積極果敢に未来に取り組んでいないではないですか。親が取り組まないのに、何で子供が取り組むのですか。親の背中を見て子供が育つということは、昔も今も不変の事実です。年をとってきたら、何となく親に似てきたと皆さん思いませんか。私も父親が生

きている頃はけんかばかりしていたのですが、今になるとすごく似てきて、嫌だと思うのですけれども、やっぱりそれは親の背中を見て育っているからですよね。

あと、義理人情の押しつけ。これはこの後言いますけれども、今は新型コロナウイルス感染症の流行で大チャンスなのです。いろんな人が東京都から岩手県に来ます。みんな岩手県に来るのが嫌なのは、不便とか、物がないとかではなく、義理人情を押しつけるからなのです。うちの地元もそうです。物理的な距離が近いというだけで、いろんなことを押しつけられるのです。今物理的な距離は関係ないですよ。昔は不便だったから、物理的に近いということに価値があったのです。今は、物理的に近いことに価値はないです。むしろスマートフォンでどれだけつながっているかというのが若い人にとっては重要なのです。ある地元の知り合いが私のところへ来て、直樹さんのところは若い人がいっぱいいていいな。地元の部落で消防活動とかいろんなことを一生懸命頑張って、飲み会等も企画して、いろいろ誘ってやっているのだけれども、なかなか若い人がいなくなって定着しないのだ。どうしてだろうと言うから、それは、あなたがいるからだ。あなたがそうやって物理的に近いという理由でいろんなこと、義理人情を押しつけるから地元からいなくなるのだ。私はそんなことはやっていない。やらないから私のところへ来るのだ。あなたが人間として義理人情を感じるのは自由だけれども、それを押しつけるなと言います。田舎の人ほど義理人情を人に押しつけるのですね。若い人に義理と人情を期待するから、大人の顔してしゃべるから嫌われるのです。それがわかっていないのです。

そして、弱者を守るために生産性を高めなければいけないです。さっき言ったようなことをやっているから、弱者を守れないではないですか。私は、弱者はもっともっと徹底的に救済してほしいと思っています。そうしないと、私たちは安心した経済活動を送れないではないですか。自分だって、家族だって、いつどうなるかわからないから、弱者は徹底的に救済してほしいと思います。それは私の価値観です。そのためには、こんなくだらないことをやっていたら、お金はないし守れないではないですか。だから、一刻も早く改めていくという姿勢を見せなければいけないと思います。

そして、年寄りこそ、もっと努力して、若者の足を引っ張ってはいけないのです。要はほとんどの年寄りは、若い人の足を引っ張りたくないと思っているはずです。こんな若い人に自分たちが邪魔になってはいけないと思っているはずなのですけれども、そういう人は自分の意見を言わないから、伝わらないのです。私の母親たちの世代のほとんどは、年寄りのためにお金を送ってほしいとかなんとか言っていないと思います。それは、本当にごく一部のノイジー・マイノリティーと呼ばれている、うるさい少数派たちが言っているだけで、ほとんどの人は、若い人の足を引っ張るのだったら私はもういいからという意見なのです。そういう人の静かな声がなかなか上がってこないと私は思っています。

価値観の変化をテレビを例にとって説明したいと思います。まず、私は嫌いでも時代に合わせます。好きだから、嫌いだからと言っていると、物事が前に進まないのです。例えばＬＧＢＴがありますよね。私には４人の息子がいます。４人の息子がいるから、誰か男

性のパートナーを連れてくるかもしれないです。僕は、男性を結婚の対象に見ることは嫌いです。好き嫌いで言ったら嫌いです。けれども、これからの時代は認めていかなければいけないですよね。さっき言った未来では当然認めなければいけないことには、自分も変わっていかなければなりません。好き嫌いで言ったら、嫌いなことは私もいっぱいあります。けれども、世の中こうなっていくのだったら変えられない、流れに棹ささないということです。

例えば、テレビとユーチューブを例にとりますと、テレビというのは公共放送でみんなにばっと流しているのです。だから、嫌われないことが大事なのです。見たくもないのに入ってくるから、好感度って大事なのです。だって、公共の電波を使っているから、いろんな縛りもあるし、やってはいけないこともいっぱいある。そのかわり嫌いな人が出てきてはいけないから、好感度が高くなければいけないのです。

では、これからの時代、テレビがはやるかというと、もうテレビは終わっていますよね。今の 20 代は、テレビを 10%しか見ないです。皆さんの孫でも、息子でもそうですよ、テレビを見ている人はいないでしょう。一家団らんでみんなで一緒にテレビを見るということを強要していませんか。その時点でおじさん、おじいさんです。要は今の子供たちは、みんながテレビを見ているとき、ユーチューブを見ています。そういう時代になるのです。それを受け入れなければいけないのに、みんなでテレビを見ないと寂しいとかと言っていますが、そんなのは年寄りの押しつけです。みんなでユーチューブを見ていいのですよ。ゲームをやっていいのです。だって、みんなゲームがだめって言っているのは、自分が楽したいだけですよね。だったら、ゲームをつくっている人は犯罪者ですか。違いますよね。東京大学を出たすばらしい頭脳を持った人が絵をつくったり、プログラムをつくったり、ゲームって物すごくクリエイティブな仕事なのです。世界各国の頭のいい人が日本に来てゲームをつくっているのです。だから、ゲームはすごくいいものなのです。それをゲームがだめって、大人たちが子供たちの可能性を潰しているのです。ゲームはすばらしいのです。ただ、やり過ぎはよくないから、どうやって付き合うかを考えればいいだけで、ゲームそのものに罪は全然ないのです。

ちょっとテレビとユーチューブを例にとります。テレビは、学校給食に似ているのです。要はハンバーグとか、カレーとかしか出てこない。激辛料理とか、パクチーとか出てきたら、嫌いな人が多いのだからそういうのは出さないでと言うではないですか。では、ユーチューブは何かというと、いいねと悪いねがあって、いくら悪いねがあったとしてもいいねが多ければいいのです。だから、アンチや誹謗中傷なんかいくらあってもいいから、いいねを多くとれるかです。それで、ユーチューブというのは、やればわかるのですけれども、自分が行くのです。テレビのようにあっちから強制的に流れてくることはないのです。自分が行って見ているのです。だから、さっき言ったテレビが学校給食だったら、ユーチューブは専門店なのです。だから、例えばパクチー専門店ですよね。パクチー専門店に行って、何でパクチー出すんだとか言ったら、それはこちらが間違ってますよね。

だから、これからの時代は、みんなから嫌われないことではなくて、いかに好きを集めていくかということなのです。今までは嫌われないことが価値観だったのです。けれども、これからはどうやって好かれるかなのです。嫌われてもいいのです。だから、私はさっき言ったように建設業者の中で年配者からすごく嫌われています。嫌われていますけれども、全然困っていないです。だって、私が大事なものは若者で、若者と一緒にやっていくのが楽しいと思ってやっているのです。だから、どれだけ好かれるかなのです。

だから、一番よくないのが和をもって貴しと成すという考え方、これが今悪影響を与えています。聖徳太子がいた700年頃は和をもって貴しと成すだったでしょう。こんな考え方が表面上何事もなくすのです。対立はいいことではないですか。対立があるから成長があるので、どんどんやっていけばいいと思っています。例えばここに書いてある雨上がり決死隊の宮迫さんって知っていますよね。ほとんどの方が知っていますよね。ＤＪ社長を知っている人いますか。いないですよね。私はＤＪ社長をすごく好きで、尊敬しているのです。

宮迫さんは、テレビの代表的なタレントだから好感度がすごくあります。だから、もうみんな知っています。けれども、宮迫さんが単独ライブをやると言ったら1,000人集まりません。300人、500人しか呼べないです。では、皆さんが聞いたことのないこのＤＪ社長、彼がイベントをやるといったら、１万人呼ぶのですよ。そのかわり彼はアンチもすごいです。物すごい誹謗中傷です。炎上商法とかもいろいろやっています。

だから、炎上って、誹謗中傷している人たちが勝手に騒いでいるだけで、誹謗中傷してくれなんて一回も頼んでいないですよね。私もインターネット上で誹謗中傷されていますけれども、私なんかはありがたいと思っています。インターネット上で誹謗中傷している人って、不幸ですよね。書いている瞬間幸せな人なんて誰もいないのです。自分で自分の人生をだめにしているでしょう。私はそのおかげで名前が知られるし、うちの会社は有名になるし、いいことばかりです。お金を払っていないのに、あの人たちはただで一生懸命やってくれて、本当にありがたいと思っています。

あのベッキーとゲスの極み乙女の川谷絵音の不倫疑惑もあったではないですか。ベッキーはテレビに出ていて、好感度が大事だから、物すごい大ダメージ。もう大、大、大ですね。不倫なんて全然罪ではないですからね。ただ、奥さんとか旦那さんに不貞を働いたら、それは謝らなければいけないですけれども、世間を騒がしてどう思っているのですかと言うけれども、騒いでいるのはあなたで、ベッキーは騒いでくれって一言も頼んでいないですよ。まわりが勝手に騒いでいるのですね。逆にゲスの極み乙女の川谷絵音は全然問題なしです。テレビに出ていないから関係ないです。逆にあの不倫疑惑で知名度が上がって、コンサートの収入どっとふえたらしいです。だって、不倫はだめだと怒っている人と怒っていない人がいたら、怒っていない人たちからゲスの極み乙女の音楽の好きな人を集めていけば、彼は全然収入になるではないですか。全然何も問題ない。だから、あの不倫疑惑でベッキーはとてつもない経済的な大ダメージを受けたわけですが、それはやっぱり今ま

での習慣で、テレビの世界で活躍していたらそうなってしまうのです。けれども、ユーチューブとかで活躍しているゲスの極み乙女は全然関係ないわけです。こういったふうに世の中というのは変わってくるのだと私は思っています。

解決策の提案ということで、これはさっき言ったように社員にいつも言っているのです。この間、会社の中でＩＴを使っていかなければいけないという説明会をやったときに、社員の感想文で、小田島組はＩＴに疎い人を置いていくのか、冷たいとかいろいろ書かれたので、もう一回その年配者を集めて、さっき言った話をしました。今から 20 年後、スマートフォンを使えない人は全部死んでいなくなる。さて、あなたがベッドにいるときにＩＴを使えなかったら孫とか子供に相手にされていると思うか。そういう人生がいいか、死ぬ寸前まで孫と子供に囲まれる人生のどっちがいいか選べと聞くと、やっぱり使ったほうがいいですかと言います。いやいや、選んでいいのだ。孫からも相手にされない人生も、それもあなたの人生だ、好きにすればいい。会社は、あなたが孫と接点を持つためにスマートフォンを貸すとかなんとか協力するけれども、やる気がないのだったら返せと言うと、いや、やっぱりやりますと持っていくわけです。こういったことだと思うのです。全然冷たくないのですよ。

アフターコロナは大チャンス、これはどういうことかというと、今、東京都でテレワークがどんどん進んでいます。うちの会社もテレワーク 50％を達成しました。テレワークは全然いけます。そうすると、これからは住むところをどうやって決めるかということです。うちの京都府の大学に通っている息子は、大学の授業は全部オンラインで、バイトも全部中止になってしまったからと帰ってきて、岩手県でアルバイトをしています。後期もオンライン授業だったら、家賃を払うのをやめようかなと思っています。月に１回くらい京都府に行けばいいだけだったら、もう全然関係ないだろう。もうそうなってきているのです。ということは、住む場所は学校とか職場に縛られないのです。スキーをする人、映像でスキーを見ておもしろいですか。サーフィンをする人、海をただ見ておもしろいですか。遊ぶのはリアルでなければつまらないから、その遊ぶ場に近いところに住むと思います。だって、サーフィン好きな人が、朝７時までサーフィンができて、その後に会社へ行っていいといったら最高ではないですか。夕方５時半から海に入れるといったら最高ではないですか。スキー好きな人も早朝スキーへ行って７時半に帰ってくればぎりぎり出勤に間に合うといったら、夕方５時半からナイターへ行っていいぞといったら最高ではないですか。だから、遊ぶのが近いところに住もうと思うわけです。恐らく皆さんのほうが御存じだと思いますが、今、東京都の一極集中は政策的にも散らそうとしていますよね。その散らそうとしているときに、岩手県に住むか、鳥取県に住むか、福井県に住むか、アメリカに住むか、ニュージーランドに住むかを決めるのが今の東京都の人たちです。そんなときの魅力を我々がどう出していくかではないですか。我々が岩手県の魅力をどう出していくかが勝負ではないですか。だから、さっき言った排他的なこととか、物理的な近さを強要するから、東京都の人は地方移住をためらいます。地方移住のサイトも結構あるのですけれど

も、やっぱり多いのは不便だとか電車がないとか、そんなものは覚悟の上だからいいのだけれども、排他的なのが一番困る。田舎の付き合いに入れとか、区会費払えとか、一緒にごみ出しをするとか、そういうのが嫌だということです。

私も思います。回覧板なんか意味ないですよ。10 年間一回も読んだことないです。何も困らないです。何でメールを流さないのかと思うのですけれども、そうすると年寄りがかわいそうだと言うわけです。さっきの選挙と一緒で、年寄りがかわいそうだという論理でどれだけお金を失っているか。本当はそのお金でもっと手厚いサービスができるではないですか。その年寄りがかわいそうだという論理があまりに強過ぎると思うのです。私も間もなく年寄りになっていきます。そういう前提で話しています。何もさせないことが年寄りを大切にするということかというと、そんなことはないと思います。うちの会社は、65 歳を過ぎてもこき使っています。70 歳になっても働けと言っています。できることですよ。直樹さん、俺はいつまで働くんだと聞かれると、死ぬまでだと言います。それは私の価値観で、人生として死ぬまで働けたら最高に幸せです。私の死んだ父親が、朝起きて、することがあるということが幸せな人生なのだと言っていました。朝起きて、することがないことは何も幸せではない。母親はサービス付き高齢者向け住宅というところに入っているのですけれども、直樹、時給 30 円でもいいから使ってくれないかと言うのです。朝にデイサービスへ行って、帰ってきてからずっと何にもしないで家にいるのでは嫌だよなと思うけれども、私も何ともならないから、週 1 回ご飯を食べるだけです。年寄りに何もさせないことが楽をさせている、そんなことはないですよね。

あと、やたら長生きをさせたいという論理です。私は子供たちに言っていますが、私の意識がなくなって、チューブを自分で止められなくなったら、チューブを止めろと言っています。それは死んだ父親からも言われました。直樹な、俺はおまえたちにぐだぐだ情けかけられるの嫌だから、俺が万が一意識がなくなって、もうどうにもならないときはチューブ切るように先生に言ってくれ。もしくは、おまえは長男なんだから、間違ったふりして切れとよく言っていました。母親からは、今も言われています。何でこんな高齢の母親殺して俺が殺人罪になるんだと言ったら、だって、意識もなくなってそういうの嫌だと言います。これは私の価値観なので、正しい、正しくないではないです。ただ、私はそう思っているし、そういう年寄りの方がいわゆるサイレントマジョリティーとしていっぱいいらっしゃるのではないかと思うのです。やたら長生きさせるだけが私は幸せではないと思っています。生きている間、意識のある間、私は目いっぱいやりたいです。そして、社員も私も、最後は時給が安くなってもいいから、できるだけ世の中の一人として参画をしていろんなことができれば、それは幸せな人生だと思っています。

要は、これからの岩手県を若者に支持される地域にしたいのか、年配者に支配される地域にしたいのかということだと思うのです。私たち年寄りは、自分がどうなりたいかでないのです。自分の子供とか孫にどうなってほしいかを考えたときに、まず私たちから変わっていかなければいけないではないですか。過去から現在の今までの思想ではなくて、未

来から現在のこれからでいいと思うのです。地域ごとに分かれたら、分かれていいと思うのです。例えば、過疎の町村は、20 年後、生き残れないのだったら、なるべく早く潰して、その人たちになるべく経済的なメリットを与えて移住を勧めるとかやっていかなければいけないと思います。生まれ故郷だからかわいそうだと、訳のわからない論理でずっとお金をかけているではないですか。あれこそ本当に無意味ですよね。だから、そういったことを早くできる地域は魅力ある地域です。何だかんだ言って、できないからだめだという地域は若者から見たとき魅力のない地域ですよね。私は北上市の中で一番過疎の地の生まれなのです。和賀仙人という超過疎の地の生まれで、もう引っ越してしまっていますけれども、今は全部で 100 人ぐらいだと思います。北上市長には、北上市で造成した宅地が 100 個ぐらい余っているところがあるから、そこに全員ただで移住させて、私のもともと生まれた地域を全部潰して人が住めなくしたらどうだと言っています。そうすると、お互いにいいではないですか。かわいそうという論理でいってしまうと、町場でそういう人を守るためにお金を払っている人はかわいそうではないのか。ちなみに、北上市役所に、町場１人当たりにかかっている税金と、そういう過疎の地域の人１人当たりにかかっている税金がいくらか出してくれとお願いしました。その数字をみたら明らかに過疎の地域の人にかかっている税金が多いから、町場の人でも黙っていないと、いくらサイレントマジョリティーでおとなしいといったって、それはいくら何でもだめだろうと思うのです。だから地域ごとに、もうこの地域は人とともに心中すると、それはそれでいいではないですか。そこに何人若者が行くかです。はっきりすればいいのです。それをはっきり教えないのが私は罪だと思うのです。変に短期的な視点でのかわいそうだで、未来、30 年後を考えたらどっちがかわいそうかです。30 年後かわいそうにならないために、私は長期的に判断すべきだと考えています。

どうしてもみんな同一性を求めるけど、違うことは悪いことではないのです。今回の新型コロナウイルス感染症もそうですけれども、自粛と言っていますが、人のやることなんて自由ではないですか。自粛するのに、何で指示されなければいけないのだと思っています。それなのに一方的に、みんな同じでなければいけないと考える人たちが自粛とかと騒ぐではないですか。全くナンセンスですよね。

うちの社員に聞いたら、子供を保育園、幼稚園に預けに行ったら、保育園、幼稚園からの通達で、東京都から来た人と接触した人は２週間子供を連れてこないでと言われたそうです。何を考えているのかと思いました。だって、交通事故で毎年 2,000 人から 3,000 人死んでいるのです。インフルエンザで 3,000 人、自殺で２万人、がんで 20 万人死んでいるのです。もちろん新型コロナウイルス感染症は恐れなければいけないけれども、必要以上に恐れて、そんなことをやっていたらおかしいではないですか。そして、新型コロナウイルス感染症の１号の人が何か大変な目に遭っている。私の知り合いの大分県と富山県の１号の人は自殺したのです。そっちのほうがよっぽど怖いです。私個人を誹謗中傷されるのは怖くないです。でも、うちの社員とか家族は誹謗中傷に耐えられないと思うので、すご

く怖いです。私は新型コロナウイルス感染症は、はっきり言って全然怖くないです。だって、極端にうちの母親が新型コロナウイルス感染症で死んだって、インフルエンザで死ぬのと一緒ではないですか。違いますか。はやり病にかかって死ぬのは一緒なのです。うちの母親は高齢だから、いつ逝ってもおかしくないではないですか。何でインフルエンザはよくて、新型コロナウイルス感染症はだめなのですか。今程度の防護をやっていたら、新型コロナウイルス感染症より、インフルエンザより、交通事故死亡者のほうが多いのではないかと思っているので、施設の人にも言っているのですが、母親のなるべく好きにさせてあげたいと思っています。だから、怖いのは誹謗中傷のほうなのです。

お互いの意見を認めてあげなければいけないのだけれども、特に田舎ほど自粛を、もうやれ、やれみたいなこの空気を移住者は一番嫌うのです。この空気を取っ払うことができたら、岩手県は変わると私は思っています。

これは小さくて見えづらいのですけれども、この歌が非常に私の気持ちを代弁している歌だったので、ちょっと読んでいきます。

人が溢れた交差点を、どこへ行く？押し流され。これは人があふれている渋谷のスクランブル交差点みたいなイメージです。どんどん、どんどん人があふれて押し流されていく。押し流されるというのは、自分の意思ではないということです。

似たような服を着て、似たような表情で。要はみんな無表情で、個性もなくずっと歩いているというイメージです。

群れの中に紛れるように、歩いてる、疑わずに。みんな護送船団の中に迷わないで歩いている。

誰かと違うことに、何をためらうのだろう。つまり没個性ですね。とにかく人と違わないように違わないようにする。人と違って目立ったら、それはだめなのだ、よくないのだ、とにかくみんなと同じようにしなければと思って歩いているわけです。

先行く人が振り返り。これはいわゆる大人という意味ですよね。

列を乱すなと、ルールを説くけど、その目は死んでいる。決してその目は楽しそうにしていない。子供たちから見たときに、ああいう大人になりたいなという大人ではないのだということです。

君は君らしく生きて行く自由があるんだ、大人たちに支配されるな、初めからそうあきらめてしまったら、僕らは何のために生まれたのか？夢を見ることは時には孤独にもなるよ。僕みたいに夢を語ると孤独になるのです。田舎だったら田舎ほど、突拍子もないことを語ると、あいつはおかしいと言って、陰口をこそこそ、こそこそ言われます。私もいっぱい言われています。けれども、うらやましいと言う人と、うらやましいと言われる人と２種類の人がいる。私は、うらやましいと言われる人になりたい。社員にも家族にも言っています。世の中には文句を言う人と言われる人がいる。私は文句を言われる人になりたい。だから、文句を言われる、誹謗中傷されればされるたびに、私はこういう人生を狙っていたのだと思うのです。私は人に対しての誹謗中傷は一言も言わないです。だから、幸

せなのです。誹謗中傷を言っていると不幸です。

誰もいない道を進むんだ。一人一人違うから、誰もいないです。

この世界は群れていても始まらない、Ｙｅｓでいいのか？サイレントマジョリティー。これは静かな岩手県民ですよ。何も言わない、声を上げない人たち。

どこかの国の大統領が言っていた、曲解して。要はどこかの国の大統領が間違って言っている。

声を上げない者たちは、賛成していると。つまり、皆さん、反対の人いますかと言うと、手を挙げないですよね。本当は思っていても手を挙げないです。だから、全員賛成だからいいですよではないのだということです。本当は心の中で反対している人もいっぱいいるのです。会社説明会に、20 人の高校生が来ました。僕に質問ある人と言うと、みんな手を挙げないです。本当は思っているのです。本当は思っている人、手挙げてごらんと何回か言うと、やっと手を挙げるのです。あと一番前の人は後ろを見れないから手を挙げないです。後ろの人は前を見て、前の人が挙げれば手を挙げる。これが現実です。

選べることが大事なんだ、人に任せるな、行動しなければ、ノーと伝わらない。つまり言わなかったらノーと伝わらないのだということです。

君は君らしくやりたいことをやるだけさ、Ｏｎｅ　ｏｆ　ｔｈｅｍに成り下がるな、ここにいる人の数だけ道はある、自分の夢の方に歩けばいい、見栄やプライドの鎖に繋がれたような、つまらない大人は置いて行け、さあ未来は君たちのためにある、ノー！と言いなよ！サイレントマジョリティー、誰かの後、ついて行けば、傷つかないけど。そうですよね、誰かの行った後を行けば傷つかないけど、自分はやっぱりいつか歩かないといけない。けれども、誰かの後についていったら、それはもう全部総意であるとひとまとめにされてしまう。つまり自分が自分であるためには、ひとまとめにされたらだめではないですか。

君は君らしく生きて行く自由があるんだ、大人たちに支配されるな、初めからそうあきらめてしまったら、僕らは何のために生まれたのか？夢を見ることは時には孤独にもなるよ。これは私もすごく感じます。やっぱりこういうことを言うと、すごく排他されます。だけど、時には孤独になるけれども、誰もいない道を進むんだ、この世界は群れていても始まらない。とにかく何かあれば群れるのが好きな人がいっぱいいます。私はあまり好きではないので群れないです。群れてみんなといると、そうだな、そうだなと、自分の意見を言わないで、誰か言うのを待って乗っかるではないですか。そんな人生は嫌だと思っています。

Ｙｅｓでいいのか？サイレントマジョリティー。

それでは、うちの社員の現実等もちょっと見てください。これは、うちの社員たちです。

〔映像放映〕

○小田島直樹参考人　今見ていただきましたけれども、ちょっと誤解があるとまずいのですが、ここで出てくる大人たちというのは、今までをつくってきたとても尊敬すべき大事な人たちです。ここは間違えないでいただきたい。大人たちを軽んじろとか、そういうこ

とではないのです。大人たちの考えに支配されてはいけないということです。むしろ私は父親として、息子たちにこう言われたらうれしいです。私を超えていったらうれしいし、多分うちの亡くなった父親もそう思っていたと思います。私のいないところでは直樹に超えられたらやっぱりうれしいと言っていたみたいです。私には結局死ぬまで一回も言わなかったですけれども、私も息子たちにそういう感情を抱いています。だから、大事にすることと、支配される、その人たちの言いなりになることは違うのです。多分多くの皆さんもそうだと思うけれども、下の世代から超えられたらうれしいではないですか。若い人が出てきたら、最後まで抵抗するけれども、うれしいという感情で、大人という意味で使っていますので、ちょっとそこだけ誤解なきようにお願いしたいと思います。

社会の実現スピードによって、これから分けられていくのです。15 年で変わるのは二流の組織、地域だと思っています。10 年で変わるのが一流の組織、地域。５年で変わるのが超一流の組織、地域だと思っています。今私が言ったようなことを５年で変えたら、絶対東京都から岩手県へ一番人が来ると思います。だって、明らかにそういうところにいたくなってしまいますよね。こんなことに 15 年もかけていたら、相も変わらないところだなと、東京都の人は来たくないですよね。

生産性の向上も、うちの会社はどうやっているかというと、岩手県は移動が多いではないですか。うちも建設会社であちこち行っているので、移動は多いのですが、就業時間中に移動が多くても、ああ、お疲れ、頑張ったなと言うのです。けれども、実は車の運転って何の生産性もないです。岩手県は県土が広いから、東京都の人が電車で移動中に仕事している、勉強している時に、私たちは何の生産性もない。時給が勝てるわけないです。こちらはすごい時間運転しているのです。だから、今うちの会社でＩＴ化をどんどん、どんどん進めて、移動時間を極端に減らしています。そうしたら、生産性が上がるではないですか。給料を上げられるではないですか。だから、岩手県の場合はいかに移動時間を減らすかが生産性アップに大きく影響します。こんな広い県土をぐるぐる、ぐるぐる走っていても、何にもなりません。今の力で勝負しているのですから、逆にチャンスです。だから、私は最低時給も 1,000 円にしたいと思っています。最低時給 1,000 円になりたいと一生懸命言っているのですけれども、誰も相手にしてくれません。

うちの地元の誘致企業の人が言うのは、北上市は良質な労働力があると言うのです。給料が安いという意味ですよね。給料が安いから良質な労働力ではなくて、北上市は最低時給 1,200 円だから、半端な会社では来れないぞ、覚悟して来いよというような地域になりたいですから、物事が高くなることに関して僕は一生懸命推進したいと思っています。やっぱり地域としてはそういうところになりたいです。

うちの会社、Ｏ２グループの展望です。2021 年、テレワーク 50％達成、社員全員がスマートフォンを持つ、女性が 25％を超える。ただ女性が 25％を超えるは、気づいたら、うち 37 人女性がおりまして、もう達成していました。

2022 年、ＩＴへの投資促進、移動時間をどんどん削減して生産性を高めて岩手モデルを

発信、移住を促す。これぜひやりたいです。ＩＴを極端に利用して移動をとにかく減らす。遊ぶ移動はいいのだけれども、仕事の移動を減らす。移動が減っただけで生産性が高まっています。だから、もうこれをぜひやりたいと思っています。

そして、若者からの魅力度アップ。今年 20 人の新卒採用です。来年は何人かわからないですけれども、2023 年には 50 人の新卒採用。そして、ユーチューブチャンネル登録１万。ユーチューブチャネル登録は、今、岩手県でたしか 4,000 とか 5,000 ぐらいしかないです。岩手県なのに大してないですよね。私が岩手県に勝てるなんてあり得ないではないですか。北上市役所は 700 とか 1,000 とか大したことないのです。まず市役所に勝つと思っているのです。小田島組が市役所に勝つとか、岩手県に勝つってあり得ないではないですか。だって、私は結構新聞に出るのだけれども、新聞に出て、おじいさん、おばあさんは、直樹君、頑張ったなとよく電話がきます。若者は誰も見てないですから、意味ないですよね。私が出るのだったらユーチューブなのです。若者に支持されたいのだから、ユーチューブに出なければ意味がないですよね。皆さん、チャンネル登録よろしくお願いします。見ていただければ、こういうことを話しています。新卒採用の現場で話していることも全部アップしていますから、見てください。

2024 年、魅力ある賃金体系ということで、女性も含む上位５％は 1,000 万円プレーヤー。従来の働き方からの解放が進む。だから、今までの働き方ではない働き方が進んで、2025 年、魅力あるＯ２グループ売上げ 100 億円、社員 360 人、経常利益 10 億円。幸せな社員をつくる。最大の地域貢献を果たす。幸せな社員をつくることが、私は最大の地域貢献だと思っています。私は結局、父親の代から公共事業をやっているので、私が大きくなったのも、嫁をもらえたのも、子供たちが大きくなったのも、全部岩手県のおかげなのです。だから、やっぱり私は岩手県に恩があります。納税してくれている方々のおかげで今の私があるので、あと何年やれるかわからないけれども、めいっぱい自分ができる限りのことをやれば、それはそれで幸せな人生だと思うので、若い人から岩手県に行きたいと言われるような魅力ある地域にしたいのです。今はきっと、若い人から魅力がないから出ていっている人が多いわけでしょう。入ってくる若者より出ていく若者が多いというのは、岩手県に魅力がないからではないですか。だから、やっぱり出ていく若者より入ってくる若者が多いようなところで、私は最後若い人に囲まれて死にたいと思っているので、そのために私にできることは、やっぱりいい社員をつくること、そして地域のよい環境をつくるエンジンが、自分が中心となってできればおもしろいのではないかと思っています。最低賃金 1,000 円もそうです。だから、北上市に私みたいな人が 10 人ぐらいいたら、盛岡市に勝てるのではないかと思っているのです。そういう人がどんどん、どんどん出てきて、切磋琢磨して頑張っていけば、全国にだって勝てるし、若い人が転出超過ではなく、転入超過になってみたいと思っています。私は死ぬまでに一回でいいから、岩手県で 20 代の若者が転出より転入がふえたというデータ見て死にたいと思っています。

年配の方に失礼な表現もあったかと思うのですが、お時間ということで終わらせていた

だきます。御清聴ありがとうございました。

○千葉絢子委員長　小田島様、大変貴重なお話ありがとうございました。

それでは、これより質疑、意見交換を行いたいと思います。ただいまお話しいただきましたことに関して、質疑、御意見、けしからん等の御意見でも結構でございますので、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

皆さんの後ろに人はいませんので、皆さんが手を挙げないと、手を挙げづらいかと思いますけれども、いががでしょうか。

とても刺激的なお話で、我々政治家は人に好かれる必要がありますから、それこそイメージ戦略で皆さんから票をいただくというのが一つの大きな命題になっておりますので、なかなか思っていても言えないということがたくさんあります。でも、きょうは有権者の皆さんはいらっしゃいませんので、本当はこう考えているのだというところをお話しいただいていいかと思います。

いろんな示唆がありました。スマートフォンを使えて、最後まで子供たち、孫たちと会話できたほうが人生豊かだと。全くそのとおりでありまして、今も規制する、しないで、国の施策と、あとは自粛をどうするかということでもめておりますけれども、今の子供たちは、Ｗｉ－Ｆｉ環境がないと帰省したがらないということも実際起きておりまして、うちの実家もＷｉ－Ｆｉを入れたということがあり、子供たちが喜んで集まる家になっております。

○髙橋但馬委員　きょうはありがとうございました。

徹底的に移動距離を減らして生産性を上げたという話があったのですけれども、岩手県は広くて、建設業だともちろん朝も早いですし、夜も現場終わってから書類づくりとかあると思うのですけれども、その辺というのは、ＩＴ環境で、会社に出社せずに、沿岸だったら沿岸に住んで仕事をやるという感覚で捉えていいですか。

○小田島直樹参考人　一気に全部というわけではないけれども、まず一つは、私は社員とのコミュニケーションをすごく大事にしているので、飲み会をいつもやっていたのです。沿岸まで飲むために移動して帰ってきていたのですけれども、昨年の９月からインターネット懇親会を実際やっているのです。懇親会ももちろんリアルがいいけれども、ある程度コミュニケーションがとれている相手とは、移動をやめてインターネットでやっています。

実は、本社で何をやっているかというと、会社の現場の書類を全部つくっているのです。そうすることによって残業時間を減らすことと、現場に集中することができます。それを全部ＩＴを使ってやっているので、この職員がやっている仕事は、現場のパソコンにリモートで接続して、現場のパソコンを操作しているのです。だから、現場にいるとパソコンが一人で動いているのです。こういったＩＴ化を進めることで相当移動が短縮できる。リアルな作業は無理だけれども、それがある限りは、逆にマーケットはあるし、安泰だということで、ＡＩに負けないぞと言っています。いくら何でも生きている間はマジンガーＺは出てこないと思っているけれども、100 年たったらもしかしたら建設業をするマジンガ

ーＺが出てくるかもしれない。それまでは、こういったやり方でいいだろうということで話をしていて、とにかく徹底的なＩＴ化です。ＩＴ化を極端に進めることによって移動距離を減らすということをやっています。

今、実はこういう仕事のアウトソーシングを受けて、東京都のゼネコンの仕事もやっているのです。こういったことで、女性の雇用とかもいっぱいできるので、若い女性職員たちはこういう仕事をやっているのです。その東京のゼネコンの仕事を、今ＲＰＡといってロボティック・プロセス・オートメーションを、ロボットにやらせようとしています。そうするとぼろもうけではないですか。それは、もちろん社員のために、そういうこともやっています。とにかく生産性を高めるにはＩＴ化が大きな鍵です。

○髙橋但馬委員　私も建設業におりまして、現場代理人とかやって、作業が終わって会社に帰ってから書類をつくっていたのですけれども、要するにその書類を別の方がつくって、もう現場に集中させるということですか。

○小田島直樹参考人　そうです。だから、うちは残業が少ないのです。ただし、若い人だけでは無理なので、67 歳の秋田県の横手市に住んでいるベテランの知恵を使っています。その人は、足腰は弱いけれども、頭と口だけは達者で、パソコンも好きなので、今、北上市でやっている工事を秋田県のその人が監視しているのです。だから、ベテランの知恵を使っているのです。死ぬまでうちでバイトできると言って、喜んで働いています。体力は、もちろん弱いですけれども、経験と知恵だけはずっと使えます。それは、その人がＩＴ化できていたからです。67 歳だけれども、フェイスブックをやって、パソコンを全然苦なく使っているから、こういうことができるのです。あの人みたいになりたいのだったら、もうＩＴ化をやらなかったら無理だぞと周りの人にも言っています。やっぱり知恵は若い職員たちではかなわないです。だから、そのベテランが、サポートしてつながってやっています。

○髙橋但馬委員　その転機はどこにあるのですか。

○小田島直樹参考人　一番は、若い人を、何の意味もなく 12 人採用したのです。若い人たちとここでずっと仕事してみて、採用してしまってどうしようと思ったときに、徹底的な細分化と分業化をしました。うちの現場の売り上げがどんどん、どんどん伸びている理由は、一つには人がいつも足りないのです。人がいつも足りないけれども、残業させられないではないですか。ということは、年配者がパソコンを使っているのを、若い職員ができればいいのではないかと思ったのがスタートです。普通は若い職員がたくさんいないから、こういう発想にならないです。今の若い職員はキーボードの打ち方を教えなくていいですが、年配者はいくらたっても覚えないです。若い職員は言わなくても、プロジェクターだって全部やりますが、年配者はいくら教えても結局できない。だったら、若い職員にやらせよう、高卒の 18 歳の職員の方が全然いいですよ。入力も今はキーボードでなくていいといいますから、キーボードできない人が多いのです。みんなフリック入力をやっているのです。でも、フリック入力をやっている人に、おまえたち、おじいさん、おばあさん

だな。僕のほうが速いよ。フリックなんか遅いんだよと言っています。なぜかというと、音声入力したほうが随分速いのですよ。こんなテクノロジーを使わないということは無駄で、お金を無駄遣いしているのに気づいていないのです。だから、会社でこういったことをどんどん進めて、うちは100人いるから100人がやったら生産性が高まるではないですか。給料だってふやせるではないですか。生産性を高めなかったら1,000万円プレーヤーなんかできないですよね。だから、こういうところがすごく大事なことで、私自身が率先して取り組んでいます。これはみんなすごいとびっくりするのです。

○神﨑浩之委員　きょうはどうもありがとうございました。優等生的な質問を最初に二つさせていただきたいと思います。一つ目はこのＯ２という名前の由来、それから二つ目は、130 人の従業員というのは地元の方なのか、それともちょっと広げたところから社長の発想にすがってきた方なのか、あとは東京都だとか首都圏の方なのか。

それから三つ目は、一見破天荒な言動と行動に見えるのですが、その由来はどこから来ているのかと思って、例えば子供の頃からそういう子供だったのか、何かのきっかけでそうなったのかとか、その辺のこともあれば教えていただきたいと思います。

○小田島直樹参考人　ありがとうございます。

まず、Ｏ２というのは、私は８月２日生まれで、●●市●●●２―２―２に住んでいて、私が２代目だったのでＯ２と言っているだけで、あまり深い意味はないです。ただ、Ｏ２というのも、酸素は人間にとって必要なもので、目に見えないけれども、ないと死んでしまうものです。同じように、やっぱり社会人は学ばなければだめなのだと、酸素と学ぶことは目に見えないけれども、なかったら死んでしまうということで一緒なのです。うちの本社もＯ２カレッジといって、夕方にいろんな形で地元の人に勉強会を開放してやっているのです。ただ、今は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、ちょっと呼ぶのをためらったのですけれども、オンラインで呼んで、とにかくあそこでいろんな講習とか勉強とかやっているのです。学生にも勉強して、資格講習とかも受けさせて、とにかく学んでほしいと思っています。

そして、透明というのは、その学んでいるところを学生たちに見せるのです。今、黒沢尻北高校の生徒がここへ来て勉強しているので、その子たちに、大人たちが勉強しているところ、学んでいるところを見せます。今まで工場って非開放だから、大人が何やっているか見えないですよね。親が何をやっているかわからないですよね。だから、そういった場を提供しようということでやっていますが、大きくなったらうちへ入れよという助平根性ですね。

今、135 人の社員のほとんどは岩手県内の方です。沿岸の人もいますし、今度初めて久慈市の高校とか釜石市の高校からも来ていました。たまに青森県の人も何人かいるし、秋田県の人も何人かいるぐらいで、まあまあこの辺がほとんどです。

私は、生まれたのは和賀仙人小学校といって、同級生３人しかいなかったので、ずっと複式学級でした。中学校に行ったときは90人のところに３人で行くし、高校へ行ったとき

は270人のところにまた行くから、いつも大派閥ではなかったのです。いつも小さい派閥で、そういう環境だったから、何となく人と違うことがそんなに苦ではないのです。ちょっと皆さんから見ると破天荒に見えるかもしれませんが、私的にはまともだと思っています。

○小林正信委員　大変ありがとうございました。

会社としてこのＩＴ化を進めていらっしゃるのですけれども、このＩＴ化に対してのアプローチというか、やはりこちらがオンラインとか駆使してやっても、相手がそれに対応できないという場合もこれから出てくると思います。それにはやっぱり岩手県全土がそういう形になっていかなければならないのだと思うのですけれども、そういった取り組みについて何かお考えがあれば教えていただきたいと思います。

○小田島直樹参考人　まさにこれがきょう呼ばれた理由です。昔は、大船渡市の現場に部下と上司が一緒に行って、話を聞いていたのです。上司がインターネットで出ていいですかと言ったら、小田島さん、勘弁してよと言われたのです。その当時は受け入れられなかったのです。今は部下が行って、すみません、上司も同席していいですかとスマートフォンを置きます。上司がテレビ電話で出るのです。そうすると、上司は移動しなくて済みます。これが、いや、この御時世ですからと言うと、そうですねと言われて、とにかく今みんな結構これで会ってくれるのです。前はそういうことを言うと、小田島さんのところはいいけれども、僕ら違うから勘弁してよとか、いや、やっぱり人対人じゃないとと言われていたので、移動を余儀なくされていたのだけれども、今はどこへ行っても、かなり受け入れてもらうので、ＩＴ化はどんどん進めるチャンスです。あと昔は変化することが嫌いなので、いや、だってさと言われたのが、今は、こういう時代ですからと言うと、そうだよねと言って受け入れてくれるので、ＩＴ化はすごいチャンスだと思います。

○小林正信委員　確かに国に対する陳情もオンラインでやられているような時代で、やっぱりそういうふうになっていくのかと思いました。確かにそのチャンスであり、今伺ったことを我々も生かしてやっていかなければならないということと、先ほどおっしゃっていて、すごくすばらしいと思ったのは、安全の知識を持っている高齢者の方が秋田県からサポートしているという話をされたのですけれども、そういう高齢者の方をデータ化するということも本当は必要なのかなということで、そういう取り組みについても今後何かお考えなのか、その点について教えていただきたいと思います。

○小田島直樹参考人　何度も言いますけれども、大人たちというのは仕事をするスキルとか、考えとか、知識は物すごいです。それは圧倒的にそうなのです。私が言っているのは、物事の考え方とか将来のビジョン、仕事の仕方を若い人に合わせろと言っているだけです。仕事のやり方は、ベテランが若い人に合わせてインターネットで指導するから、すごくうまく伝わるのです。ですから、そういうベテランにＩＴ化を教えてあげるようなことを、今、ぜひやってほしいのです。個人的にもそういう支援をちょっとやろうかと思っています。うちの60歳の社員が会社でプログラミング教室をやると言ったら、危機感を感じてや

っています。20代の社員は会社の中でプログラミングをただで全員にやらせます。私はプログラミングなしで何とか逃げ切れる世代だけれども、20代の社員は、私たちが英語を話せなければだめなのと一緒で、プログラミングからはもう逃れられないのではないかと思うので、全部やらせようと思っています。岩手県の10代、20代もやらざるを得ないです。好き嫌いではなくて、もうやらざるを得ないという感じです。そういうふうに自分はやっていきたいと思っていますし、ぜひやっていただきたいと思います。

○千田美津子委員　きょうは大変ありがとうございました。非常に刺激のあるお話をいただいて、どっちかというと過去の経験主義がすごく多かったので、そういう意味では若者に視点を置いた取り組みというのは本当に大事だということを痛感しました。

それで、女性社員が今37人いらっしゃるということで、本当にすばらしい場所、場所で活躍されていると思うのですが、その37人の仕事は、例えば採用したときの職種でずっと固定するものなのか、それとも希望とか定期に異動したりすることもあるのかが一つと、それから、今年20人採用されたということなのですが、その中に女性はどのくらいいらっしゃったのか、教えてください。

○小田島直樹参考人　女性が20人のうち7人です。今年来た高校生は、23人中18人が女性でした。

職種に関してはいろいろです。私は、女性たちに岩手県の女性の給料が安いのは、おまえたちにも問題があると言っています。結婚までの腰かけ的なところでやって、結婚したらどこか適当な事務員になって、一生20万円の給料でやるのですよ。これは価値観ですけれども、自分でスキルを身につけて、結婚してもちゃんと、子供を預けて働けと言っています。自分たちのキャリアで働いて、また子供産むときは休んだっていいではないかと言っています。一定の子育てを終えたら、きちんと社会に出て働いて、やっぱり高い給料を取れる人間になってほしいと思います。そのためには自分も結婚までの腰かけみたいな意識をやめて、月給20万円ではやってられませんという意識で仕事をやろうということを言っています。岩手県で女性で40歳で1,000万円とったら夢があるではないですか。道はあるのです。あと目指すか目指さないかは、自分次第です。けれども、道があることは夢ではないですか。普通は女性で1,000万円って、思っても道がないのです。道がないから夢がないのです。うちはあるぞと、ぜひやってほしいです。ただ、今20歳とか22歳なので、40歳までに私が会社にいるかと言っているのですけれども、本当になってくれたらうれしいです。

○千田美津子委員　本当に聞けば聞くほどすごいなと思って、長く頑張っていただきたいと思います。さっき北上市に同じように考える人があと何人かいればというお話がありましたけれども、そういうチームというか、他の会社とのそういう連携みたいなものはありますか。

○小田島直樹参考人　私自身、地元から好かれていないので、あんまりないですね。だって、最低時給1,000円と高い給料を払いたいと言うだけで、相当の人から嫌われます。私

は高い給料をとれる社員を育てることが夢なのです。だから、高い給料の社員は私の財産なのです。私の中ではお金は財産ではないです。けれども、普通はお金が財産という人が多いので、なかなか理解いただけないです。私はお金なんて持って死ぬことはできないから、だったら少しでも、直樹さんのおかげでいい人生だったと言ってもらえるのが私の夢です。

○千田美津子委員　ありがとうございました。どっちかというと岩手県はほかに比べると給料が安いので諦めている部分が非常にあるのですが、でもやり方次第でということで希望を与えて、そしてそのためにどう努力するかという、そういうところを教えているということはすごいすばらしいことだと思います。

それからあと、社屋を若い人たちに開放して、そういう研修なんかも自由にできるようにしているということが、私は女性の希望が多い理由の一つだと思うし、会社の姿勢がそういうところに現れていると思ったのですが、何かその辺であればお話をお聞かせいただければと思います。

○小田島直樹参考人　単純に私は女性だからではなくて、自分の仕事をする、一緒にやっていけるという能力で選んだら女性が多かったというだけの話です。特に高卒は、男性は後ろにお母さんがいそうでだめなのです。うちの会社では、高卒ははっきり言って、女性のほうがレベルが高いです。あと、うちの会社で高卒と大卒だったら、高卒のほうがいわゆる頭はいいです。たまたま大学には家庭の事情、要はお金がないから行けなかっただけの話で、結構うちはレベルが高いので、上位の子が来るのです。最近は、岩手大学とか岩手県立大学からもいっぱい入ってくるようになったのだけれども、少なくとも高卒は女性のほうが優秀です。女性のほうがしっかりしている。だから、どうしても女性を採ってしまうのです。

○岩渕誠委員　きょうはありがとうございました。私も時々フェイスブックを拝見しております。なかなか我々は立場がありますから、いいねって押せないのですけれども、北上市長とは広報紙の論争など、いろいろとお見かけしております。

いろいろお聞かせをいただきましたが、ＩＴ化、５Ｇも含めて、私は推進すべきだという立場でいるのですが、これまでの中で１社だけがＩＴ化を進めても、周りの環境、ツールが追いついてこないというところがありました。恐らく通信環境はここ２年ぐらいで一気に進むとは思いますけれども、社会常識の中では多分阻害をされる部分が大きいだろうと思うのです。そういった中で、Ｏ２グループの展望で 2022 年に出てくる岩手モデルというのはどんな業界、どんな会社など、捉え方さまざまあると思いますが、Ｏ２グループとしての岩手モデルというのをもう少しかみ砕いて教えていただければと思います。

○小田島直樹参考人　具体的には見えていないのですけれども、いずれその生産性を高めるということ、生産性を高めるということは、仕事をするレベルを高めていく、そのためにはＩＴを極力使って、岩手県はこれだけ広い県土だから、とにかく移動を減らすのが一番有利だと思っています。そういったところの生産性を高めるということと、その時代に

合わせて早く変わっていくということです。間違うかもしれないが、失敗を恐れない。失敗を恐れないで、どんどん変わっていけるというところが、私から見たら魅力ではないかと思うのです。だから、失敗がだめなのではなくて、成功しないことがだめなのです。失敗と成功は反対ではないですよね。失敗の積み重ねに成功があるのだけれども、失敗と成功は反対と捉えて、失敗することをだめと言ってしまうと挑戦しないから、結局成功もないのです。けれども、失敗するから成功があるのだから、早く失敗するというような県民性とか会社がふえてきたら、私はほかから来た人には夢があるのではないかと思います。

○岩渕誠委員　わかりました。いわゆる移動距離の問題が出てきましたが、ＩＴ化によって、私は情報の移動距離というのは、東京都であろと、岩手県であろうとほとんどイコールに描けてくると思います。ただ、どうしても現場を持っていると、物理的な距離をどうしていくかという問題が出てくると思うのですけれども、その辺はどういうふうにお考えになっているのでしょうか。

○小田島直樹参考人　さっき言った建設産業は物理的にもうどうしようもないと思うのだけれども、例えば薬剤師とか医者は、もう別に遠隔で全然いいと思うのです。今手術でさえも、５Ｇになればタイムラグがなくなるので、遠隔でいけるのです。手術でさえも遠隔でいけるのであれば、相当のことが遠隔に置きかえることができると思うのです。それと、さっき言ったように、私はあまりにも過疎なところはもうぜいたくだと思うので、人口密度何万人以下になったら、それは強制移住とかなんとかというルールがあれば、さらに移動距離も縮まってくるのではないかと思います。

○軽石義則委員　きょうはありがとうございました。私も過疎化の北上市立花の出身です。和賀仙人小学校にも同級生がいました。

　先ほど義理人情の話がありました。地域を成り立たせるためには、やっぱり皆さんが協力してやらなければならない共同作業というのが、岩手県などはまだ多くあるのですけれども、それをなくすことによって生活が成り立たなくなる状況も現在はあると思うのです。それが嫌で都会から来ないのだという話も先ほどいただきましたけれども、そういうことがあっていいのだという人も、声としてはあるわけです。私たちの仕事の上ではまず自助、自分で生きるためにどうするか、共助、周りで支える、それができなければ最後に公助という、いわゆる公共の取り組みがあると思うのですけれども、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○小田島直樹参考人　一番最後に述べたように、地域ごとに分かれていいと思うのです。岩手県は空気がおいしい、食べ物がおいしいというのは、負け惜しみと言ったのですけれども、本当にそう思っている人がいるのも事実ですし、私はそれを認めたいです。だから、それはそういう人がそういう地域に住めばいいと思うし、私みたいな人は私みたいなところに住めばいいし、お互いを認めればいいと思うのです。同じような価値観のスペースに住むとお互い居心地がいいし、それを市ごとに独自で出していって、うちはこういうのを目指しているからそういう人が来ればいいと、岩手県は住んでいるところをある程度分け

て、お互いの違いを認めて暮らせるような県になればいいと思うのです。物理的にそこに住んだことだけがふるさとではなくて、そういった形で違いをお互いに認めていければいいと思っています。

○軽石義則委員　ありがとうございます。共通するところもありますし、岩手県でこれから次の世代をつくっていくのもまさにそこが始まりで、つながっていくことは大事だと思います。こういう新しい道具をどう使っていくかというのは、まさにきょうのお話の一つだと思いますが、いつまでも今あるものを大事に使うことも、これは伝統文化も一つで心の支えになっている部分もありますから、そういうものも大事だと思いますけれども、そういうものをつないでいく気持ちもやっぱり社長として社員の皆さんには伝えているところもあるのでしょうか。

○小田島直樹参考人　健全な競争で生き残るものは生き残ればいいと思うのです。会社もそうですけれども、潰れる会社がないこともだめなのです。潰れる会社があるからいい会社が生まれるのですけれども、みんなかわいそうという論理で、だめな会社を救ってしまうからよくないと思うのです。芸能も何でも、やはり時代に必要とされるものは残るでしょうし、不必要とされるものは健全に淘汰されるでしょうし、それをかわいそうだとしがみつくのは、私は大きな目での発展を阻害してくると思うのです。時代に取り残されないために、芸能でも何でも頑張るのです。だからといってＩＴ化は絶対進めたくないと言っても、アナログだったら潰れるではないですか。やっぱり自分たちも変えていかなければいけないではないですか。会社も組織もそういう人たちだけが生き残るところに私は住みたいと思うのです。

○軽石義則委員　大変勉強になります。

最後に一つだけ教えていただきたいのですけれども、人材育成、現場の安全はやはり年配の経験者にはかなわないところはあると思うのですけれども、人材育成する上で評価というのはやっぱりついて回るのですよね。賃金を高くしたいという社長のお気持ちは大変私も同感なのですけれども、ただそこに本人が納得できるような努力評価を企業内でどうしていくかというのがこれから大事だと思うし、多分御社の場合は理想的なそういう評価をされているから人も集まるし、仕事も進んでいるのではないかと思うのですが、具体的にこういうところに力を入れているのだというところがあれば教えてください。

○小田島直樹参考人　一つには、若い人が多いせいで、小田島組は事故が多いのです。もうそこは課題で、本当に事故だけは絶対なくすということでやっていますけれども、本当にベテランには全くかなわないです。

評価に関しては、うちは評価制度をフルオープンにしているのです。うちの会社の方針は人を評価するのです。やったことのみの評価なので、例えばこういう利益を上げた、こういう勉強会へ出た、回数とかも全部ＩＴでピックアップしているので、もうアーもスーもないですね。そして一番は、社員が、私が高い給料をとってほしい、高いボーナスをとってほしいと知っているのに、例えば自分たちが事故を起こして利益を下げてしまったら、

当然、評価を下げますよね。特に幹部社員がＣ評価を取ったら、社長、このたびは大変すみませんでしたと謝りにきます。私も人間なので社員に好き嫌いはありますけれども、事を評価する以上、好き嫌いで評価できないですから、人の評価ではなくて、常にやったことということを徹底してやっているので、社員もＣ評価をつけられても、それは自分がＣという成果だったので、次は頑張るみたいな形でやっています。

○千葉絢子委員長　ほかにいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○千葉絢子委員長　ありがとうございます。それでは、ほかにないようですので、本日の質疑、意見交換は、これをもって終了したいと思います。

私から一言御礼申し上げたいと思います。私も県議会では小さい組織に所属しておりまして、議会の中でもはじかれがちなのですけれども、それがありましたから特に共感してお聞きできるところがたくさんありました。

大抵少年は大人になる過程で、いろんな社会の常識だとか年長者の価値観だったりとかに抑え込まれて、どんどん目の輝きを失っていくと私は感じていて、それが息苦しさにつながっているのではないかと思うのですが、きょうその少年のまなざしを宿したままの小田島さんのお話を伺うことができて、このようにうちの息子にも年を重ねて実績を上げていってほしいものだと、うちの子供にとってのいいお手本にきょうは出会ったという気がしております。

うちの家庭の話で恐縮なのですが、３世代同居で、親は 70 代です。やはり世代間ギャップというのは家庭内でも生まれておりまして、なかなか実権を渡したがらない親と、それから親を超えたい息子が対立して、住宅のリフォームが一つの原因だったのですけれども、築 30 年の家の水回りを替えたいと言ったときに、食器洗浄機を入れるのは絶対嫌だという姑の抵抗に遭って今困っているのです。それを入れると私は台所を使わないという宣言をされて、では台所はこのまま残して、私たちは増築しますという結論になって、余計なお金がかかることになったのです。そういった中でどうしたら家族が集まるのか、帰ってきたい、ここにいたいと思えるような空間にするかというのが私たちの年代のテーマであるのに対して、古いものを受け継いでいきたいという親世代の考え方というのは、本当に普通の家庭でも対立をしているのがこの社会の縮図と言われる家庭の中によく現れていると思っています。

若い世代はともすると、自分たちの意見を言うことって親不孝になるのではないか、目上の方に対して失礼なのではないかというところで、自分たちも黙っていようと抑圧してしまいかねないのですが、きょう小田島社長のお話を聞いて、決してそれはいけないことではないのだと、変わっていくという姿勢も必要だし、我々世代として若い世代から学ぶこともいくつになってもあるのだということが非常に自分を解放してくれたような印象を持たせていただきました。

人づくりが一番の喜びというか、自分を超える人材をつくるためにどうしていったらい

いかというのは、我々政治家にとってもすごく大きな命題ですし、それをどういうふうに岩手県を変える力にしていくかというのも、きょうは気づきをたくさんいただいた講演をしていただいたと思っております。

今後も小田島様の社員の皆さんの幸せが本当に達成できるように、そして根本的な貧困の解決策として女性の1,000万円プレーヤーという、そういう夢を多くの県民の若い世代に与えていただきたいと思いますし、私も小田島様が元気なうちに20代の転入超過を見届けたいと思っております。ぜひ一緒に力をいただいて岩手県の発展に御尽力いただければと思っておりますので、今後の御活躍を御祈念申し上げたいと思います。

本日はお忙しいところ、誠にありがとうございました。

それでは、委員の皆様には次回の委員会運営等について御相談がありますので、しばしお残り願います。

次に、９月に予定されております当委員会の調査事項についてでありますが、御意見等ございましたら、お願いいたします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○千葉絢子委員長　特に御意見等なければ当職に御一任願いたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○千葉絢子委員長　それでは、さよう決定いたします。

以上をもちまして本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれをもって散会いたします。